

議員派遣結果報告書

令和元年第3回定例会において議決された議員派遣について、次のとおり実施したので、その結果を報告いたします。

令和元年11月8日

愛南町議会議長 内 倉 長 藏 殿

愛南町議会副議長 原田 達也

記

1 研修の経過（議員派遣の概要）

本議会は、令和元年10月16日に徳島市「徳島グランヴィリオホテル」において、地方行政及び議会の制度運営等に関する研修を目的に開催された、第60回四国地区町村議会議長会研修会並びに令和元年度第2回町議会議員研修会に参加した。

2 研修の詳細

(1) 第60回四国地区町村議会議長会研修会並びに

令和元年度第2回町議会議員研修会

①派遣議員

鷹野正志、原田達也、佐々木史仁、坂口直樹、山下太三、中野光博、
濱本元通、宮下一郎、那須芳人、吉村直城、土居尚行、西口 孝、
内倉長藏 以上13名

②表 彰

四国地区町村議会議長会表彰（自治功労者表彰（勤続19年））を徳島県7名、愛媛県2名、高知5名の議員が受賞した。

③内 容

演 題 政権の課題と「ポスト安倍」の行方

講 師 政治ジャーナリスト・駿河台大学客員教授 田崎史郎 氏

講演内容 昨年2月の「週刊文春」の「好きなキャスター&コメンテーター」という企画記事で、ワースト2位となった田崎氏。安倍総理側に余りにも近いとの理由のようであるが、自分の取材のスタンスとして、自身が実際に会って話し感じたことを論評する。決して周りからの情報や他人の論評を参考にしないとのこと。

論評については皆さんが決めることであり、結果として安倍寄りと思われるのは仕方がないなど、安倍首相の一期目の途中辞任の裏話やその後の動向等についての話や次期総理候補についての話あり。

安倍・石破氏の総裁選挙を例に、政治家を問わず組織の中で言えることは、「目配り」「気配り」の大切さを説明、更に人前で話すことのポイントとして「演説は事前に聞き直す、話の枝葉は切り短くゆっくりと話す」など議会運営の参考となる講演であった。



演 題 地方創生のリアル～覚悟はあるのか～

講 師 四国アイランドリーグ plus 理事長 坂口裕昭 氏

講演内容 四国アイランドリーグの運用実績や選手のモチベーション等地域との関わりを通して、地方再生について、物の見方・考え方の講演あり。

地方創生は、夢がなければ人は集まらない。無駄に経費をかけてもうまくいかないことを経験から強く感じた。また人への説明として「成果指標」があるが、良く他と比較する人がいるが、数字のマジックであり馴染まない。なぜならば、その地域や対象により条件が異なる旨の具体的な説明あり。

例えば、「地域」で言えば、都会と田舎（地方）では、人口や施設、インフラ等、「対象」で言えばNPBと独立リーグとでは、到底集客の知名度が違いすぎるなど経験からの分かりやすい解説あり。

地域活性化は、地域の人だけではダメ。地方以外の人を入れることで活性化する。独立リーグの8割以上の選手が四国外。これはインバウンドであり、地方創生の一助である。また選手の報酬が月10～15万円で高いか安いかという議論がされるが、ものの考え方で、選手たちは長くこのチームにいる目的ではなくハングリー精神をもって短期間（2～3年）で結果を出すためには、生活出来る金額。過去に30万円程の報酬を出したチームがあったが、そのことに満足し、上を目指さなくなった選手がいるなどの話があった。

最後に、数字のマジックに振り回されず、まずは、「価値観を変える＝見方を変える」ことで、イノベーションが経済発展の主要的要因であり、地方創生の大きな要因であることについて教えられた。

以上、報告とする。